

1. 平成 17 年度運営目標・方針
  1. 1 教育改善を推進し、教育目標が達成できるよう努力する。
  1. 2 体系的な学習支援、進路指導、課外活動の推進を行う。
  1. 3 JABEE プログラムの内容充実に努める。
  1. 4 研究活動を活性化する。
  1. 5 学科の PR を積極的に行う。
  1. 6 環境整備を進める。
  
2. 平成 17 年度実施計画
  2. 1 入学者志願者確保  
以下にあげての重点に学科の PR を行う（教務委員を中心に）
    - [1] 市民講座・地域行事へ積極的に参加する。
      - ・ 1 名の教員が市民講座の講師を担当した。
      - ・ 1 名の教員が新居浜市主催のコンテストの審査員も務めた。
    - [2] 出前授業・公開講座を実施する。
      - ・ 出前授業を実施した。（中萩中学校） 公開講座も実施した。
    - [3] 体験学習・国領祭の学科展示などの内容を充実させる。
      - ・ 内容の充実を図り参加者が増加した。
    - [4] 学校挙げての取り組み（アイデア通りなど）へ積極的に協力する。
      - ・ 2 名の教員がアイデア通りプロジェクトに参加した。
      - ・ シンボルロボットコンテストへの協力も行った。（予備審査員も選出）
    - [5] Web ページによる情報発信を活性化する。特に中学生向けの内容を改善する。
      - ・ Q&A の充実が図れた。
    - [6] 保護者・学生に学科の情報を伝える（廊下の掲示板・新聞など）。
      - ・ 保護者懇談会の折に、進路状況・資格試験についての文書を配布した。
      - 不参加の保護者には郵送した。
    - [7] 学科独自の中学生向け PR パンフレットの作成・配布。
      - ・ パンフレットは作成できなかったが、カラーコピーで資料を作成し配布した。
    - [8] 実習・卒研などの成果を学外に向けて発表する。（公開発表会）
      - ・ 昨年度のような発表会は実施できなかった。
      - ・ 学校で行われた行事を利用し、作品発表は積極的に行った。
  
  2. 2 学習生活支援
    - [1] 学生の勉学に対する意識改革を図る
      - (1) 課外特別活動・オフィスアワーの有効活用
        - ・ 課外特別活動は、担任・副担任に負担をかけることが多かったが、毎回計画的に実行できた。
        - ・ オフィスアワーについては、JABEE 関連の臨時会議が割り込んだりして教員の時間確保が不十分であった。
      - (2) 低学年の指導（アドバイザー制度の活性化）
        - ・ 1, 2 年の演習科目において、電気基礎科目の指導を中心に行った。
        - ・ 隔週ではあるが、担当学生と接することができ有効であった。
      - (3) 成績優秀者の指導（さらに上を目指させる）

- ・進学者が18名と例年になく多かったので、受験に関する補習の効果は挙げた。
- (4) 成績不振者のフォロー（補習を行う。）
  - ・試験前に質問に来る学生に対しては各教員十分対応したが、積極的に働きかける努力は足りなかった。

[2] 生活指導（全員が積極的に注意する。）

- (1) 服装、身だしなみ、自転車2人乗りなどに対する指導
- (2) 学生に対する挨拶の励行
- (3) 朝の校門での登校指導
- (4) その他

低学年： 茶髪、ピアスの禁止の指導

高学年： 学校周辺での喫煙

・学校の指導に積極的に協力した。

[3] 課外活動

- (1) クラブ活動の指導に協力する。
  - ・全員が顧問を行い、積極的に指導を行った。
- (2) 授業以外のプロジェクト（体験学習・出前授業・アイデア通りなど）を活用し、学生とふれあう機会を多く持ち、幅広い指導を行う。
  - ・出前授業・体験学習の準備などを通じて、学年を超えた学生間の交流も図るよう努力し成果を挙げることができた。
  - ・アイデア通りプロジェクトで他学科の学生の指導も行った。

2. 3 教育改善

[1] コース制を踏まえてカリキュラム・シラバスを見直す。

- (1) 専攻科を含めたカリキュラムの見直し
  - ・カリキュラム・シラバス検討委員会を中心に問題点を洗い出した。
  - ・改善は来年度に持ち越した。
- (2) 実験内容の見直し、実習科目の新設
  - ・実習を多く取り入れることを柱に、統一的な内容として整備できた。

[2] 学生の勉学に対する意識改革を図る。

- ・学科で統一して、授業中の居眠りや私語などには減点を課すこととした。
- ・効果が上がるまでさらに継続的な努力をするという教員の意識統一はできた。

2. 4 JABEE

[1] 電子制御工学科との連携も密にし、全員で協力し受審の準備にあたる。

[2] プログラム内容の充実・改善を積極的に進める。

- ・無事審査を受けることができた。
- ・今後の継続的な取り組み体制も整いつつある。

2. 5 研究活動

[1] 成果を発表する（授業改善・学生指導なども含め）。

- ・論文発表は行えなかった。

[2] 個人ごとの目標を立てて実現に向け努力する。

- ・十分できなかった教員が多かった。

[3] 他の機関（企業・大学）との共同・受託研究を活発にする。

- ・2名の教員が企業からの受託研究を受けた。
- [4] 卒業研究・特別研究の活性化を行う。
  - ・グループでの指導體制を取り、活性化を図ったが不十分であった。
- [5] 科研費など、外部資金獲得に努力する。
  - ・科研費の申請件数が一件減り努力が足りなかった。
  - ・1名の教員が新居浜市ものづくり教育の支援を受けた。

## 2. 6 地域連携

- [1] 市民講座・地域行事へ積極的に参加する。
  - ・1名の教員が市民講座の講師を担当した。
  - ・1名の教員が新居浜市主催のコンテストの審査員も務めた。
- [2] 出前授業・公開講座を実施する。
  - ・出前授業を実施した。(中萩中学校) 公開講座も実施した。
- [3] 地元企業との共同・受託研究を活発にする。
  - ・愛テクフォーラムへの入会・活動を積極的に行った。
- [4] 学校挙げての取り組み(アイデア通りなど)へ積極的に協力する。
  - ・2名の教員がアイデア通りプロジェクトに参加した。
  - ・シンボルロボットコンテストへの協力も行った。(予備審査員も選出)

## 2. 7 環境整備(環境委員を中心に)

- [1] 実験室・廊下を整理整頓し、スペースを有効利用する。
  - ・年度内にすべて完了することはできなかった。現在も進行中である。
- [2] 教員の時間を確保する。
  - (1) 学科会議をスピーディに(プロジェクトなどの活用)
    - ・今年も不十分であった。特に集合に時間がかかるのが無駄であった。
  - (2) 業務を分担して行う。
    - ・十分とは言えなかった。
- [3] 校内外の環境美化に協力する。
  - ・環境委員を中心に積極的に協力できた。

## 2. 8 その他

- [1] 教員相互の情報交換を頻繁に行い、問題がある場合などは、全員でフォローできる体制を作る。
  - ・定例の学科会議以外に昼食時にも積極的に情報交換を行った。

## ○ 総括的な評価と課題

入学者志願者確保については、昨年度に比べ学科としては増加したのである程度成果を挙げることであったが、さらに努力をする必要がある。学習生活支援に関しては、ほぼ実施計画どおりのことは行うことができたが、低学年での留年者・進路変更者がでるなど継続して努力していかなければならない課題も多い。教育改善については、JABEEの効果もあり教員の意識は統一された。継続的な取り組みができるかが問題である。研究活動に関しては全体に低調であった。全教員今後も努力していく必要がある。地域連携に関しては積極的に行ったが一部教員に負荷が偏っているのが問題である。環境整備に関してはコース制が進んでおり研究・学生実験用スペースの確保をさらに進める必要がある。